

豊田加茂地域の市町村合併を考える(1)

豊田加茂 8 市町村合併研究会は 02 年 11 月に開始され、この 8 月 5 日をもって解散されることになった。当日の第 6 回研究会で三好町が「単独宣言」をして、8 市町村の枠組みが崩れたためだ。その場で三好町を除く 6 町村は、市町村合併に関する「要望書」を提出し、05 年 3 月までの合併を求めたが、豊田市長は態度を保留した。

会議録によると足助の矢沢町長は、次のように発言している。「豊田市に嫁入りする話ですから、持参金が少しでもあるうちに行くのが礼儀」として、合併特例法の期限内の合併にこだわった。持参金とは地方交付税や合併特例債のことのようだ。この発言に 6 町村の気持ちがあらわれているが、藤岡町だけは温度差が感じられる。

藤岡町はきれいなホームページの冒頭に「日本一若いまち」というキャッチフレーズをかかっている。平均年齢は 34.1 歳であり、総合計画でも「若い我らは虹色の風を受けて」というサブタイトルをかかっている。豊田市からトヨタの若い労働者などが流入しているため、人口もこの 10 数年で倍増し、今後も増加がつづくと予想している。

藤岡町は人口増加や宅地開発などにより、財政基盤も強化されてきた。財政力指数は 02 年度が 0.971、3 年度には 1.190 になるという。これには臨時財政対策債の振り替え、段階補正の影響などにより、基準財政需要額が落ち込んでいる影響もある。それでも財政力指数が 1 を超える状況になり、足助町など他の 5 町村との財政力の格差は歴然としている。5 町村は人口減少がつづき、過疎化の進行に頭を悩ませている。

5 日に藤岡町でおこなわれたシンポジウムの基調講演において、町の財政状況から拙速な合併に問題をなげかけた。10 月 8 日付けの朝日新聞三河版は、シンポジウムなどの動きに対して「徹底した効率化で知られるトヨタ自動車のおひざ元で、地元の企業などからも行財政改革を目指した自治体合併を求める声は根強く、住民や町関係者も困惑している」と報じている。記事のなかで、鈴木豊田市長は 8 月上旬にトヨタ自動車首脳と懇談して、「周辺町村が豊田市に依存するだけはいけませんが、行財政改革や地方分権の流れの中で合併は必要」との示唆を受けたことを紹介している。

今月中には、7 市町村合併に対する豊田市の意向が表明されるというが、藤岡町の動向が注目されるところだ。

(10 月 13 日記)